

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0270600307		
法人名	有限会社 ケアサービス十和田イースト		
事業所名	グループホーム たかしずの森		
所在地 (電話番号)	〒034-0041 青森県十和田市相坂字高清水78-54 (電話) 0176-22-0150		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年12月4日	評価確定日	平成22年2月10日

【情報提供票より】(平成 21年 11月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 15人, 非常勤 2人, 常勤換算	16.6人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1・2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	10,000~冬期21,000 円
敷金	有( ) 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 980 円			

### (4) 利用者の概要(11月 1日現在)

利用者人数	17 名	男性 1 名	女性 16 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名
要介護3	6 名	要介護4	4 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	83 歳	最低	71 歳
		最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	石川医院、ふくい歯科クリニック
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は住宅街にあり、目の前には駅、隣にはコンビニエンスストアがある。2つのユニットの内装には洋風と和風に分けられており、どちらにも行き来できる環境となっている。事業所内から外の風景が見られるつくりになっており、季節感を感じられる。また、地域との交流も積極的で、災害時における協力体制も整っている。
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で改善課題となっていた項目について職員と話し合い、改善に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	事前に管理者が作成したものを職員に確認してもらい、意見を記載してもらっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2か月に1回開催している。管理者、利用者、家族代表、民生委員などの参加があり、外部評価結果やサービスの実情等を報告し、助言をいただいている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)
	家族からは面会時などに意見や苦情、要望を聞き、家族、本人が不安にならないようにサポートしている。退居後のアフターフォローも行っている。また、記録を個別ファイルに保存し、ケアへ反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	管理者が町内会長という事もあり、町内との連携がとれており、災害時には協力を得られる体制がある。高校生のボランティアの受入や、小学校の行事へ参加する等、地域と積極的に交流が図られている。

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者が理念を掲げ職員に日々周知し、日々のケアに取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を見えるように掲示している。朝礼や職員会議などで常に理念を確認し、ケアに取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣の小学校と交流があり、学習発表会や運動会等の行事に招待していただき、参加している。高校生のボランティアの受け入れも行っている。また、近隣住民とは気軽に声をかけあい、積極的に地域との交流が図られている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>事前に管理者が作成したものを職員に確認してもらい、意見を記載してもらっている。外部評価後は改善項目について職員会議で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2か月に1回開催している。管理者、利用者、家族代表、民生委員などの参加があり、外部評価結果やサービスの実情等を報告し、助言をいただいている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所の運営状況を報告したり、相談にも応じてもらうなど市担当者と協働でサービスの向上に努めている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は権利擁護事業の研修に参加し、職員へ周知している。また、権利擁護を利用した方もいるため、職員は制度を理解している。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>マニュアルが整備され、いつでもみられるようになっている。職員会議などで周知し防止に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前に十分な説明をし、利用者、家族に納得していただいた上で契約をしている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>面会時などに日々の生活状況を報告している。遠方の方には、フォト便りで日々の生活状況の写真を同封して郵送している。金銭管理は、レシートのコピーも含め郵送している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時などに要望など聞かれておりその都度対応している。家族からは面会時などに意見や苦情、要望を聞き、その都度対応している。また、記録を個別ファイルに保存し、ケアへ反映させている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>2ユニット間で1年の目安で異動はあるものの、普段から職員の行き来があるため、利用者も顔なじみとなっており、利用者への影響は少ない。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員は外部研修に参加している。研修参加後は職員会議などで内容を報告している。また、資格取得希望者への支援をしている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の他事業所の行事へ参加するなど、交流する機会がある。		
<b>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学していただき、事業所の雰囲気を見ていただいている。入居の際は自宅で使用していた物を持ってきてもらい、本人が安心して生活出来るよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活をしているという気持ちで接している。利用者から教わりながら作業をすることもあり、共に支え合う関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の関わりのなかでの会話や行動から希望や意向の把握に努めている。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回、職員の情報をもとにケースカンファレンスを行っている。介護計画は家族の要望や本人の意向が反映されたものとなっている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の状態変化など、その都度ミーティングなどで情報を得ながら見直しをしている。家族へも報告し了解を得ている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院の送迎や、買い物の付き添いなど柔軟に支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前からのかかりつけ医へ受診している。管理者が受診の付添いをしており、利用者の状態報告や相談をしている。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>看取りのケースはないが、家族や病院と話し合いをし連携を取りながら対応できる体制がある。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報パソコンで管理している。利用者への対応や声かけなど、プライバシーに配慮した支援をしている。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1日の日課表はあるが、利用者の要望を優先に考え、希望にそえるよう支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食事の準備や後片付けを手伝ってもらっている。また、利用者と職員は会話を楽しみながら一緒に食事をとっている。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回の入浴となっているが、利用者の状態や希望により入浴日の変更など柔軟に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝の掃除、洗濯たたみ、食事の準備、犬のエサやり、花の手入れなど利用者の生活歴に合わせ、役割を持っていただいている。		
28	58	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所には車が三台あり、外出やドライブなど利用者個々の希望に合わせ支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。研修に参加しており研修後は伝達研修で職員に周知している。マニュアルも作成している。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。事業所前がすぐ道路となっているため、安全を考慮しセンサーやモニターを設置し対応している。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を定期的実施している。隣のコンビニや住民へ働きかけ、災害時の協力体制が整っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	インターネット等を参考にしながら、高齢者のカロリーを考えたメニューを提供している。摂取量が不足の場合は病院へ連絡し、指示をもらい補給している。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員会議等で感染症の予防について周知している。インフルエンザの予防接種は職員と利用者全員に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b></p>					
<p><b>(1) 居心地のよい環境づくり</b></p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室入り口には季節に合わせた飾りつけをしている。事業所内から外の景色が見わたせ、季節感を目で楽しむ事ができる。照明や室温など利用者に合わせて調整し、居心地の良く過ごせる工夫をしている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の使い慣れたテレビやちゃぶ台、三味線を持ち込み、居心地の良い居室となるよう工夫している。また、仏壇を持ってきている方もいる。</p>		

 は、重点項目。